第６学年道徳指導案

平成17年10月28日(金)２校時
６年４組（男14名女16名計30名）
指導者　　黒瀬　敬

１　主題名　ふるさとを愛する心　　（　郷土愛　４－(7)　）
２　資料名　誕生、わたしたちの青山町駅　（自作資料）
３　主題設定の理由
（1）　価値について
第５学年及び第６学年の内容項目４－（7）は「郷土やわが国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。」となっている。この内容項目は郷土とのかかわりに関するものであり、郷土を愛する心を持った児童を育てようとするものである。また第１学年及び第２学年の内容項目４－(4)「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。」と第３学年及び第４学年の内容項目４－(5)「郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心を持つ。」、４－(6)「我が国の文化と伝統に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。」を受けた内容項目であり、中学校の内容項目４－(8)「地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。」に発展していく。
私たちが自分たちの生活している地域をふるさととして捉え、そのふるさとを愛する心は、一人一人の地域での生活やそこに暮らす人々とのかかわりを通して作られていく。そしてそれは、自分を慈しみ育ててくれた地域を大切にしたいという思いと、そこを離れてもその地に対して、思い巡らさずにはいられないという思いから成るものである。またその地域が多くの先人の努力と苦労の上に築かれたことに敬意を示し、自分もまたそれを継承し発展させていくべき責務があることを自覚し、そのために努めようとする心がまえを持つことでもある。自分を育んでくれたふるさとに対して感謝の念をもつことは自然な感情である。そしてその地域に自分なりの関わりをもち、働きかけをしていくことが地域と結びつくということになる。
この期の児童は郷土をはじめ、日本全体へと興味関心が広がっている。郷土を愛する心が日本全体に発展し、国を愛する心が児童の内面から自覚されることが大切である。そのためには、郷土に生きた先人や、今もなお郷土の発展に尽くしている人々の生き方や考え方に触れ、自分の郷土について見つめ直し、郷土に対する自分の生き方を考えることは大切なことだと考える。
（2）児童について
郷土愛についてのアンケートでは「青山町がすき」と答えた児童が93%に上った。主な理由として「買い物ができるお店がたくさんあるから」「子ども会などが楽しい」と商業施設の充実と地域の人々との触れ合いを上げた子が多く、地域をすきと答えてはいるものの、地区の本質的な良さに気付いているとはいえない状態である。「地域の成り立ちについて年長者から話を聞いたことがあるか」という問いに対しては 66%の児童が「ない」と答えており、地域に対する関心の低さが窺える。青山町に新しく駅ができることを知っている児童は72%に上るが、正確な場所を知っている児童は数名だった。このような価値、資料に対する事前調査の結果、郷土愛の本質や先人の労苦などに触れ、郷土愛について考えていくことは本学級の児童にとっては意義があることである。
（3）資料について
本資料は青山町の成り立ちから始まり、「駅」と言う視点で地区を見つめることをねらいにした自作資料である。本校がある青山地区は戦後引き上げの人たちが多く住み着き、発展してきた町である。そしてその発展の途中で「青山地区に駅を」という地区民の声が挙がるが、駅建設の話は頓挫する。時代は流れ、平成 18年３月青山地区に新駅ができることが決まった。その駅舎建設に自分たちで関わろうとする人々の運動や願いを通じて、今一度自分たちが住んでいる青山の地を見直そうとする、というのが本資料の主な内容である。
資料文の内容は現実にいま自分達の地区で進んでいる話であり、子どもたちにとっては身近な話である。児童は今まで触れてきた郷土愛に関する資料と比べ、資料の内容に興味関心を持てると考えている。
（4）授業の構想
今回の授業は、本校の研究の視点である「地域の人材を生かす」を授業に取り入れたものである。自作資料を作成するにあたり地域の方々から取材を重ねた。資料は青山町の歴史を土台にし、青山町に新駅ができるということから今住んでいる地域に目を向ける、という内容である。その資料作成の過程で地域の人々の地域に対する思いに触れることができたことは授業の構想を考えていく上で有意義であった。授業では「駅」を軸にしながら、最終的に地域全体に目を向けさせるようにしていきたい。地域のことを取り上げた自作資料を使う

ことによって、子どもたちの資料に対する興味関心を高め、価値を主体的に自覚するように促したいとも考えている。

4 全教育活動における本時の位置付け

郷土愛

〈教科・総合的な学習の時間〉

国語「共に考えるために伝えよう・みんなで生きる町」
【９月】
「多くの人が使えるように」をきっかけに、自分の身の回りの物をユニハ゛ーサルデザインの観点から見直し、調べたことを交流して深まった考えをまとめるとともに、生活に生かしていく意欲をもつ。

社会「暮らしと政治を調べてみよう・人々の願いとまちづくり」【10月】
地域社会の政治のしくみを学び、街づくりに寄せる人々を願いを知る。

理科「人とかんきょう」【２月】
理科学習のまとめとして人と環境のつながりや関係を考える。

音楽「日本の音楽を味わおう」【１月】
日本の伝統的な音楽のふしを味わい、自分たちでメロディーを考える。

総合的な学習の時間「私達の青山・地域を知ろう、地域の達人から学ぼう」
【９月～11月】
自分たちの暮らしている青山について調べ、地域に住む優れた能力を持つ人々との交流をもつ。

主題名　自然を大切に【４月】
３－(1)環境保全
資料名　花かげの花守りたち
ねらい　自然のすばらしさを知り、地域など、自分の身の回りの自然を大切にしようとする気持ちを育てる。

主題名　国を愛する心【８月】
４－(7)愛国心
資料名　追われてもー高野長英
ねらい　我が国を思い、国のために人生をささげた人の生き方から国を愛する気持ちを育てる。

主題名　学校を大切に思う心【９月】
４－(6)愛校心
資料名　父のアルバム
ねらい　先輩や地域の人々の学校への思いに気づき、よりよい学校をつくっていこうとする気持ちを育てる。

本時

主題名　ふるさとを愛する心【10月】
４－(7)郷土愛
資料名　誕生、わたしたちの青山町駅《自作資料》
ねらい　地域の歴史を作り上げた先人の功績に興味を持ち、地域に駅ができることに対する地域の人々の気持ちを考えることを通して、地域のことを大切にしていこうとする気持ちを育てる。

4-(7)郷土愛
郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。

〈特別活動・日常生活〉

ゴミ０運動【５月】
全校児童で清掃に取り組み、学校及び近隣の公共施設の環境美化に努め、地域を大切にする気持ちを育てる。

修学旅行【６月】
仙台、松島という本県と違う地に赴き、そこの地の歴史や文化を学ぶことにより、その比較から自分の住む地域を大切にする気持ちを育てる。

小中合同奉仕作業【８月、１月】
中学生とともに地域の公園や公民館を清掃し、地域の環境に対して興味を持ち、地域を大切にする気持ちを育てる。

＜子どもの意識＞

・地域の自然を守っていこう。

・日本のために努力をした人がいたんだなぁ。

・自分が学んでいる学校のために自分でやれることをしっかりやって行こう。

・私達のふるさと青山もこれからますます発展していく。私たちにも何かできないかな。
・ふるさとを発展させるぞ。
・ふるさと青山を離れたとしてもいつまでも忘れないぞ。

5　本時の指導

（1）ねらい　　地域の歴史を作り上げた先人の功績に興味を持ち、地域に駅ができることに対する地域の人々の気持ちを考えることを通して、地域のことを大切にしていこうとする気持ちを育てる。

（2）展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点
気づく 7分	1　「ふるさと」の意味について話し合う。 ○「ふるさと」という言葉からどんなことを思いますか。	・自分が生まれ育ったところ。 ・田舎という感じがする。 ・将来は離れる気がする。	・個々の子どもが持つ「ふるさと」のイメージを自由に出させ価値への導入を図るとともに学習意欲を高める。
	2　資料「誕生、わたしたちの青山町駅」を読み、学習課題を設定する。 ○感想を発表しましょう。	・地域の人たちが私たちに向けた願いの言葉が印象に残った。	・感想から学習課題を設定する。
	「駅ができる本当の意味」という言葉に込められた地域の人たちの願いは何でしょう。		
深める 25分	3　「地域の人たち」の気持ちを中心に考え、話し合う。 ○駅をつくる運動を重ねてきても駅ができなかったとき、地域の人たちはどんな思いだったでしょう。	・信号所では汽車を止めることができても駅の建設はやっぱりだめかもしれない。 ・青山町には駅が必要なんだ。 ・やはり駅はできないのか。 ・青山町の駅は私たちの声で実現するぞ。	・駅ができなかったときの地域の人たちの落胆の気持ちや希望を捨てない気持ちを考えさせる。
	○駅づくりに参加しようとした人たちはどんな思いでこの運動を始めたのでしょう。	・私たちが考える駅ができるだろうか。 ・駅をつくる運動をさらに続けていこう。 ・青山の街も駅を中心に発展できるようにしたい。 ・私たちの地区にふさわしい駅にしたい。	・駅ができる喜びと同時に自分たちで何かできないかと考え、行動した人たちの思いに触れる。
	○駅づくりに関心が高まらないとき、駅づくりに参加している人たちはどんなことを考えたでしょう。	・この運動を続けても無駄かもしれない。 ・このままじゃ今までと同じような駅になってしまう。 ・どうして私たちの思いを分かってくれないんだ。 ・みんなが愛してくれる駅をつくるんだ。	・思うように運動が盛り上がらない悩みに共感させ、それでも運動を続けていこうとする地域の人たちの気持ちを考える。
	◎「駅ができる本当の意味」という言葉に込められた地域の人たちの願いは何でしょう。	・駅ができることをきっかけに地域をよく見つめて欲しい。 ・ふるさとの今の姿は多くの地域の人々の努力の結晶だ。 ・ふるさとを作り上げてきた人々に感謝して欲しい。 ・ふるさとの発展はあなたたち若い人たちの肩にかかっている。	・地域の人たちが子どもたちへ向ける願いを考えることにより、価値把握につなげる。

見つめる 10分	4　自分たちのふるさとについて考える。 〇地域の人たちの願いについて、今どんなことを思いますか。	・私たちに向けられた期待が大きいと分かったのでもっと地区のことを考えていきたい。 ・通りや街並に名前をつけて親しみやすい街にするなど地区の人たちの期待に応えていきたい。 ・お年寄りの話を聴いてより地域のことを知りたくなった。	・地域の人たちの願いを受け止め、今までのふるさとに対しての意識やこれから持つ意識を考えさせることにより価値の自覚を深めていきたい。
まとめる 3分	5　まとめをする。 〇石川啄木の短歌を読み味わいましょう。	・啄木もまたふるさとを愛した人なんだなぁ。 ・やっぱりふるさとは離れてからよさがわかるのかなぁ。	・石川啄木の短歌を幾つか紹介し、啄木の郷愁感に触れさせ、余韻をもってまとめる。

7　資料の分析

（1）ねらい　地域の歴史を作り上げた先人の功績に興味を持ち、地域に駅ができることに対する地域の人々の気持ちを考えることを通して、地域のことを大切にしていこうとする気持ちを育てる。

（2）資料名　誕生、わたしたちの青山町駅　（出典　自作資料　）

主な場面	青山町に駅ができなかった理由を、青山町の歴史とともに説明している場面	青山町に駅ができることが決まり、駅づくりに地域の人が参加する場面	青山町の駅の建設に参加している人たちが悩みを打ち明ける場面	地域に駅ができることについてその真の意味を問う場面
把握すべき状況	・青山地区には路線があっても素通りの形だったのです。 ・戦争が終わってからできた新しい町と言えます。 ・でも駅はできなかったのです。	・ついに青山地区に駅ができることになりました。 ・青山小学校の子どもたちの中でもすでに参加している人もいます。	・新しい駅をつくろうと一生懸命に活動を進めている人たちにも悩みがあります。 ・駅の完成をめざして日々活動を続けています。	・みなさんが卒業を迎える頃、新しい「青山町駅」が完成します。 ・青山町をにふさわしいすてきな駅舎が完成することでしょう。
登場人物の心の動き	希望 挫折 ・自分のことは自分でする。 ・「青山地区に駅を」と望む声がわき上がりました。	希望 悩み　不安 ・自分たちの手で、青山町にふさわしいデザインの駅をつくりたい。 ・その思いを盛岡市に訴えていこう ・住民が住みやすい町を自分たちの手で創っていこう。	郷土愛 決意 あせり　不満　不安 ・新しい駅をつくろうとと一生懸命に活動を進めている人たちにも悩みがあります。 ・人々のつながりがどうしても薄くなりがちになる ・子どもたちの思いをつかむのがとても難しい。	郷土愛 希望　感謝　期待 ・みなさんもにもこの青山地区の歴史を知り、同時に青山地区の未来像も一緒に考えて欲しい。 ・自分たちのふるさと「青山」をもう一度見つめなおしてみませんか。
児童の反応	・青山町の駅はわたしたちの声で実現するぞ。 ・青山町には駅が必要なんだ。 ・やはり駅はできないのか。 ・信号所では汽車を止めることができても駅の建設はやっぱりだめかもしれない。	・私たちの地区にふさわしい駅にしたい。 ・駅をつくる運動をさらに続けていこう。 ・青山の街も駅を中心に発展できるようにしたい。 ・私たちの考える駅ができるだろうか。	・みんなが愛してくれる駅をつくるんだ。 ・このままじゃ今までと同じような駅になってしまう。 ・どうして私たちの思いを分かってくれないんだ。 ・この運動を続けても無駄かもしれない。	・駅ができることをきっかけに地域をよく見つめて欲しい。 ・ふるさとの今の姿は多くの地域の人々の努力の結晶だ。 ・ふるさとを作り上げてきた人々に感謝して欲しい。 ・ふるさとの発展はあなたたち若い人の肩にかかっている。
発問	○駅をつくる運動を重ねてきても駅ができなかったとき、地域の人たちはどんな思いだったでしょう。	○駅づくりに参加しようとした人たちはどんな思いでこの運動を始めたのでしょう。	○駅づくりに関心が高まらないとき、駅づくりに参加している人たちはどんなことを考えたでしょう。	◎「駅ができる本当の意味」という言葉に込められた地域の人たちの願いは何でしょう。

誕生、わたしたちの青山町駅

平成十八年三月、青山地区に新しい駅ができることをみなさんは知っていますか。

今まで盛岡駅の次は厨川駅でした。つまり青山地区には路線があっても列車は素通りの形だったのです。

なぜ、今まで青山地区には駅がなかったのでしょうか。そのお話をするためには青山地区の成り立ちまでさかのぼらなければなりません。ではそのお話からしていきましょう。

青山地区は第二次世界大戦後、中国大陸などからの引き上げの人たちが、多く移り住んだ町です。つまり戦争が終わってからできた新しい町と言えます。ですからこの青山の地に移り住んだ人たちは、多くのものを自分たちでつくり出す必要に迫られたのでした。街並や商店街など、みんな戦争後にできたのです。実は青山小学校の校庭も、青山地区の人たちが仕事の帰りに整地をして作り上げたというお話です。このように青山地区の人たちには「自分のことは自分でする」という気質が生まれ、開拓者精神が育ちました。

青山の人たちが「青山地区に駅を」と望む声はすでに昭和の二十年代からあったそうです。盛岡中心部をはじめ様々な所に働きに行くために不便を感じていたからです。

でも駅はできませんでした。青山地区の人たちはとてもがっかりしました。でもそこは開拓者精神の青山地区の人たちです。なんと駅がつくれないのであればと、信号所（厨川中横、お菓子の丸藤付近にあったそうです）で列車を止めての乗り降りを、今の JR にお願いし、実現させてしまったのです。すごいですね。

その後、何度か「青山地区に駅を」という声は上がりましたが、青山地区の人々の思いは届かず、ついに今まで青山地区に駅はできなかったのです。

そして平成十五年三月、ついに青山地区に駅ができることになりました。今度駅を実際に造るのは盛岡市です。そんな中で青山地区の人たちの中から「自分たちの手で、青山町にふさわしいデザインの駅をつくりたい、また建設にも関わろう、そしてその思いを盛岡市に訴えていこう」という声があがりました。その人たちを中心に設立されたのが「みんなでつくる青山銀河ステーションの会」です。

この会は地元の商店街の人など、青山地区の有志の人たちが中心になって活動しています。

「そこにすむ住民が住みやすい町を自分たちの手で創っていこう」という考えのもと、「グランドワーク」という手法で駅の建設を進めているのです。「グランドワーク」とは、住民・会社・市役所などが一緒になって、地域の身近な環境整備・改善に取り組む活動です。この活動に、青山小学校の子ども

たちの中でもすでに参加している人もいます。具体的には建設予定地を見学したり、駅のデザインを考えたりという集まりが昨年数回行われています。

このように様々な取り組みをして新しい駅をつくろうと一生懸命に活動を進めている人たちにも悩みがあります。それは、この活動に対してあまり地区の人々の関心が高まらないということです。青山のような人口の多いところでは、古くからその地域に暮らしていた人々と新しく移り住んできた人々、そしてその地域で働く人々との結びつき、つながりがどうしても薄くなりがちになる、それが大きな原因の一つではないか、と会の人たちは話しています。またこの活動に子どもたちが参加するとき、本当に子どもたちがその活動に満足しているのか、子どもたちの思いをつかむのがとても難しいとも話しています。

それでも会の人たちは「地域の人々が愛してくれる駅、そして誇りを持てる駅」の完成をめざして日々活動を続けています。

このように青山地区の様々な人々の願いや思いを受けて、駅の建設がはじまっています。そして、みなさんが卒業を迎える頃、新しい「青山町駅」が誕生します。きっと青山町にふさわしいすてきな駅舎が完成することでしょう。

「みんなでつくる青山銀河ステーションの会」の人たちは、青山小学校のみなさんに次のような願いを寄せています。

「この会は新しい駅の建設について活動をしていますが、わたしたちは新しい駅をつくることだけではなく、青山地区全体の発展にまで目を向けています。駅をつくろうとしていく運動の中で、今あるこの青山の街をつくってきた人々の存在や思いにたくさん触れることができました。みなさんにもこの青山地区の歴史を知り、同時に青山地区の未来像も一緒に考えて欲しいと思います。そしてそのようなことを考えていくとき、この青山地区に駅ができる本当の意味が見えてくるでしょう。」と。

みなさんも青山町駅の誕生を機会に、自分たちのふるさと、「青山」をもう一度見つめなおしてみませんか。